



GT-R Magazine × FUJI SPEEDWAY

R's Meeting 2021 in 富士スピードウェイ

秋晴れの富士に集った 最高の仲間たち

昨年に続いて「無観客」での開催が濃厚だった今年の「R's Meeting 2021 in 富士スピードウェイ」。
コロナ感染者数が全国的に急増した7月下旬以降、イベント自体の開催是非を検討せざるを得ない状況があったのも事実である。
しかし、10月24日(日)の本番が近づいてくるにつれて感染も収束。GT-Rファンたちの「熱い思い」がきっと届いたのだろう。

2019年以来、2年ぶりに一般来場者を受け入れての「有観客開催」が実現。

快晴の富士に集まった参加者／来場者の皆さんの表情は、マスク越しでも笑顔に満ち溢れていることが伝わってきた

文：野田航也（本誌） 写真：北畠主税／木村博道／増田貴広（本誌）



中止予定だったトークショーも復活!



生誕32周年記念 R32開発陣トークショー



田口 浩氏(左上)、渡邊衛三氏(右上)、加藤博義氏(右)が会場に駆け付けてくれた。16年ぶりにGT-Rを復活させるにあたり、社内でそのことを伏せ続けていた理由など、R32開発時のエピソードなどを明かしていただいた。R32の商品主管を務めた伊藤修令氏は残念ながら都合により来場できなかったが、イベント直前に会う機会があったという渡邊氏が伊藤氏に「R32に関するある質問」を投げかけたとのこと。その答えはYouTubeの動画にぜひチェックを!



今年のイベントテーマは「R32生誕32周年」ということで、R32商品主管/R33商品主管の田口浩氏、R32実験主管/R33・R34商品主管の渡邊衛三氏、日産自動車 車両実験部 テクニカルアドバイザーの加藤博義氏のお三方を特別ゲストに迎えて、R32開発当時の秘話を披露いただいた。ステージ前には渡邊氏所有の世界に一台しかない「ダークグリーンのBNR32」も展示

☆当日のステージの様子は本誌公式YouTubeチャンネルで配信中!
bit.ly/2ZZIkvx



R32レジェンドドライバートークショー



勝つことを使命に生まれたR32。当時、グループAやN1耐久でそのステアリングを握ったドライバーによるトークセッションも開催。R's Meeting初登場のグループAドライバー・鈴木利男氏に加え、本誌でもお馴染みの桂 伸一氏、木下隆之氏の「コボキン」コンビも登壇。当時のレースでの逸話やレーシングカーとしてのR32の驚愕の性能をあらためて語ってくれた！



鈴木利男氏(左上)、木下隆之氏(右上)、桂 伸一氏(左)がレーシングカーとしてのR32についてトークを展開。当時の懐かしい写真とともに、R32のレースでの歩みを振り返っていただいた。ちなみに、R's Meetingでは12年連続でステージMCを務めているフリーアナウンサー兼レーシングドライバーのオギ姉こと萩原なおさんがレースを始めるきっかけとなったのが、鈴木利男さんとの出会いだったという事実も明らかに！? こちらも動画でぜひともチェックを！

R35 2022年モデル 開発陣トークショー



2年ぶりにR35GT-Rの新しいモデルイヤー (MY22) がデビューしたこともあり、日産自動車R35統括責任者の田村宏志氏に加え、車両開発責任者の川口隆志氏が初来場。R35開発陣トークショーをお届け。100台限定のT-specにまつわる技術的な話や抽選に関する逸話、そして今後のGT-Rに関する超重大発表(?) など、GT-Rファン必見の内容がテンコ盛りであった



R35チーフ・プロダクト・スペシャリスト 田村宏志氏(左)と本誌イベント初登場となるR35チーフ・ビークル・エンジニアの川口隆志氏が登壇。冒頭でR35の責任者であるお二人が壇上でいきなり頭を下げる場面が!? こちらも動画にて！



イベント当日、発売直後のT-specで颯爽と会場に駆け付けた田村氏。日産ブースには今冬国内発表予定の「Zプロト」も特別展示！新しいZもR35同様、田村氏と川口氏の二人が手掛けるモデルだ



直前の告知にもかかわらず 4,218人のファンが来場



今年もイベント広場では6班の撮影チームによる愛車撮影会を実施。また、P12駐車場では車両のみの簡易的な撮影コースも新設。計478台の歴代GT-Rが参加した



愛車撮影会参加者の皆さんには受付で検温を実施。コロナ禍前に比べると手間が掛かるようになったものの、皆様のご協力によりスムーズに進行することができた



本誌の誌面を飾る写真を手掛けるプロカメラマンがエントリーしたオーナー&Rを個別に撮影。一生の記念になる写真だけに、撮る側も気合いを入れて臨んでいます！



今年のR's Meeting 2021の様様と愛車撮影会参加者の写真は、令和3（2021）年12月21日（火）発売予定の本誌別冊「GT-R OWNERS FILE 2021」に掲載！



「GT-Rのイベントだからできる」という確信

イベント本番10日前に決断 有観客開催への期待と不安

前号の本誌161号では、冒頭コラムで「R'sミーティング 2021」の無観客開催を告知した。9月中旬には全国的に感染者数が減少し始めており、161号の発売日（10月1日）は、奇しくも緊急事態宣言の「全面解除」開始日と重なった。

9月下旬の時点で規制が緩和される予兆はあったのだが、最終入稿の締め切りギリギリまで決断を延ばし、結果、その時点では無観客で開催すると発表した。本の発売以降「全国で緊急事態が解除されたのになぜ？」という疑問の声も寄せられた。その気持ちも理解できるし、われわれ主催者側が望んでいたのも「有観客」での開催だったのだ。

19年までのイベント同様、一般来場者を招き入れて安全に開催するには「予想や予測」を元にした発表はできない。有観客と告知しながら、否、やはり無観客で、と二転三転することだけは避けたかった。「最悪のパターン」を想定しての判断だったことをご理解いただきたい。

主催者として有観客を公式に発表したのは、開催地の「富士スピードウェイ」がある静岡県が10月1日以降の2週間の措置として掲げていた「緊急事態宣言解除後の対応方針」が緩和された10月14日のこと。イベント本番まで「あと10日」というタイミングでの有観客への変更告知には、そんな事情があったのだ。

そこからの約一週間は、まさにバタバタであった。当初は中止の予定だったトークショーを急遽セッティング。ステージ関連の手配をし、直前でお声掛けをしたゲストの方々に「迷惑をお掛けしたと同時に、そん

な状況でも快く引き受けてくださったことに感謝の気持ちでいっぱいだった。例年、心配なのは「当日の天候」である。しかし、今年は直前での有観客告知となったため、果たして一般の観客が来てくれるのかどうか、そのことが最も気掛かりで、当日の朝を迎えても心はざわついていった。6時30分、ゲートオープン。

「たとえ無観客でもブリスを出す」という心暖かい意思表示をしてくれたメーカー／ショッパ計24社の出版社や愛車撮影会のエントリーユーザーと共に、朝早くから一般来場者も続々と会場に駆け付けてくれた。

色とりどりの歴代GT-Rが並ぶ会場内が、こんなにも多くのファンで溢れ返る光景は想像していなかった。会場に入るには受け付けテントで名前と連絡先の登録を済ませ、リストバンドを受け取ることをアナウンスしていたが、マスク着用必須というルールと共に皆さんしっかりと守ってくれた。

12年連続でR'sミーティングを開催してこれたのも、GT-Rファンの皆さんのマナーの良さがあってこそ。会場内では「今年もイベントを開催してくれてありがとうございませう！」と声を掛けてくださる方が数多くいらっしゃった。「こちらこそ、足を運んでくださって本当にありがとうございます！」と、お礼すべきはむしろこちらのほうなのに。

昨年、無観客でもなんとか実施することができたという経験。そして、今年はコロナ禍でも有観客で無事に開催することができたという自信。R'sミーティングは、GT-R愛のある皆さんのご理解と協力があるからこそ成立するイベントなのだ。そのことを再認識し、改めて身が引き締まる思いだ。



GT-R Magazine × FUJISPEEDWAY
R's Meeting 2021 in 富士スピードウェイ

富士に集結したメーカー&ショップの真剣度

Rが繋げる三位一体の歓喜

当初は無観客としていた「R's Meeting 2021」。それでも出展したいと申し出てくれたRの強い味方であるメーカー&ショップ。急きょ有観客に変更したにも関わらず、全国から集まってきたファンの方の皆さん。やはりGT-Rは特別な存在とあらためて実感する

文／写真：佐藤 圭 写真：木村博道



海外仕様の左ハンドル。国内で見かけることはほとんどなく、ほかのGT-Rと差別化したい人には格好の素材だ。RGFではすでに何台か登録しており、オーダーも受け付けているとのこと

RGF

☎0243・62・3177

レア度満点の左ハンドルのR35を堂々展示!

日本ではほぼ見かけないレアな左ハンドルのR35をナンバー付きで展示し、ギャラリーの視線を浴びた福島県の「RGF」。最初の1台こそ排ガスの検査など登録まで苦労したそうだが、ノウハウも十分に得たので興味がある人は相談してほしいとのことだ。ホワイトのR35はアドバン・スポーツを履いており、金澤代表は「純正より乗り心地がいい」と絶賛する。ブラックのR35はサーキットも走る仕様で、大絶賛するのはエンドレスのブレーキキットである。初期投資はそれなりに必要だが制動力はバツグンなうえ、ローターだけを頻繁に交換するよりも結果として安上がりだという



RGFではラッピングフィルム『SPP F』も取り扱っている。フロントまわりなら23万円ほどでキズをブロック!



GT-Rのパワーを確実に受け止めつつ、快適性も兼ね備えていると、RGFイチ押しタイヤはアドバン・スポーツ



サーキット派にオススメしたいのはエンドレスのブレーキキット。制動力と幅広いコントロール性、耐フェード性に優れる



ブリッジ コンセプト デザインのピストン。モリブデンとフッ素樹脂による2層式コーティングの採用など、HKSのノウハウを注ぎ込みつつ5軸削り出しよりも低価格

エッチ・ケー・エス

☎0544・29・1235 <https://www.hks-power.co.jp/>

充実の最新RB用エンジンパーツをお披露目

ドラッグレースやタイムアタックだけでなくグループAをはじめとするレースも含め、GT-Rのチューニングを語るうえで欠かすことのできない「HKS」。今回は熟成を重ねたエンジンパーツを数多く展示した。とくに注目したいのは高性能モデルに近い精度を出しつつも価格を抑えた、ブリッジ コンセプト デザインのピストン。トラス構造の鍛造素材を新開発し剛性を高めつつ、スカートの形状や各部の薄肉化で軽さも両立している。ほかにもシリンダーヘッドを冷却するヘッドガスケットや、クランクシャフトの振動を抑えるブリーなど、GT-R用パーツの進化は止まらない!



ダンパーがクランクシャフトの振動を軽減。大径ウォーターポンプブリーとセットで冷却性も向上するアイテム



ヘッドに流入する冷却水の通路のサイズを最適化したグロメット構造のRB用ヘッドガスケットにも注目したい



ハイパワーながら優れた耐久性を併せ持つ。HKSが誇る2.8ℓキットのステップ3は究極のRBとも言える存在だ



BBSの「RE-V7」をR35専用にMCRがプロデュース。サイズはフロントが10.5J×20+25、リヤが11J×20+10で鍛造1ピース。サーキット走行を想定し強度と軽さを追求した

エムシーアール

☎04・7199・2845 <https://www.mcr-ltd.com/>

拘り抜いたR用新アイテムも続々登場する!

GT-Rのチューナーとして、自らもR34とR35を愛車として所有する小林真一代表が率いる「MCR」。ブースには「MCRイズム」の結晶とも言えるR34とR35のデモカーだけでなく、BBSと共同開発したR35用専売ホイールなどを展示した。また新商品としてハブ径が66mmで厚さ20mmのホイールスペーサーも登場。硬質アルミ2017材を使って、強度と精度にこだわり抜いた逸品だ。惜しくもイベント当日には間に合わなかったが、RB26DETT用チタン製フロントパイプも発売された。等長タイプで重量は純正の5.6kgに対しわずか2.2kgを実現した。気になる方はぜひチェックしてみよう



隙間に先端を通すことで長さを調整するという、ユニークなオリジナル牽引ロープ。0.8~1.6kgの軽さも魅力だ



人気のMCRステッカーは「戦神」のブルーとレッドが新たに登場した。小ぶりのサイズで貼る場所を選ばない



ホイールスペーサーはR35にも第2世代にも使用できるアイテム。装着にはロングハブボルトへの交換が必要なので注意だ



金子謙二代表が「昔から絶対に作りたいと考えており、構想15年ようやく実現できた」と話す試験車両を展示した。なお燃料タンク位置は純正のフロア下から助手席へと変更されている

ネココーポレーション

☎0267・23・8665 <https://www.neko-co.jp/>

中身丸見えの試験車両を製作する本気

R35チューンを支える存在で、モータースポーツ車両の製作とメンテナンスに始まり、高性能のデータロガーやレース用コンピューターのソフト、サスペンションの開発と多岐に渡って活動する『ネココーポレーション』。今回はパーツの動きが見えるよう各部をカットした、R35の試験車両を持ち込んで海外メディアにも注目された。驚くことにこのまま走行することができ、エンジンベンチではわからないトラブルを発見したり、実走と同じ状況でデータを取ることが目的だという。車両と真剣に向き合ってより優れた製品を提供する、ネココーポレーションの姿勢を表す展示だった



電子制御により排気音量をコントロールするというバルブ。他パーツと同じく試験車両で何度もテストを重ねた



エアクリナーのパイプ径も試験車両を使ってテストしている。ボックスは純正でも顕著な違いが出るそう



フロントまわりも外装パーツはごっそり剥がされており、オイルクーラーやサスペンションが丸見えの状態となる



RE-V7はダイヤモンドシルバー／ダイヤモンドブラック／ゴールド／ブラックの4色をラインアップ。いずれもGT-Rの車格に相応しいスポーティさと高級感を併せ持っている

BBS

<https://bbs-japan.co.jp/>

定番LMに追加されたオプションが注目の的

F1やスーパーGTなどモータースポーツのトップカテゴリに製品を供給。多くのショップやユーザーからも支持される『BBS』のホイール。今回の目玉は第2世代GT-Rに向けた「RE-V7」で、軽快さと力強さを感じさせる7本メッシュが特徴だ。また「RI-D」は航空機に使われる超超ジュラルミンをBBSが世界に先駆けて投入し、脅威の軽さと強度を実現したという高性能。5本クロススポークのフェイスも独創的で、足元を優雅にドレスアップしてくれる。「LM」のリムオプションとして設定された、艶やかな光沢のブラックブライトダイヤカットにもぜひ注目していただきたい



GT-Rの足元を飾る永遠の定番とも言えるLM。新たなリムオプションの登場で、ますます人気が高まりそう！

R35に装着されたRI-D。センターキャップにはジュラルミンを意味する「DURA」の文字がデザインされている



従来のシルバーダイヤカットとは明らかに違う、ブラックブライトダイヤカットの圧倒的な存在感もポイントだ



HKSのキットで4.3ℓに排気量アップし、トラストのTD06SH-20RXタービンを組み合わせる。オリジナルのダブルオイルクーラーシステムを搭載しサーキット走行にも対応している

フェニックスパワー

福井店 ☎0776・67・2980 京都店 ☎0774・48・1157 <http://www.phoenixs.co.jp/phoenixs/>

ストリートからサーキットまで激速仕様!

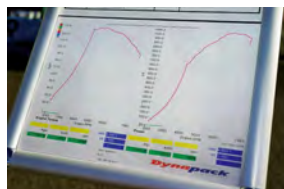
日本のチューニング界を牽引するプロショップの一つ『フェニックスパワー』はデモカーの2号車を展示。基本はストリート仕様だがサーキットでも十分すぎる速さを発揮するという、心臓部となるエンジンは1049.28ps / 132.39kgmを絞り出すモンスターマシンだ。外装はオリジナルのMY17用カーボン製フルエアロで、ボンネットとフロントのフェンダーがトップシークレット、カーボン製のトランクとGTウイングはパリスをチョイスする。足まわりはアラゴスタベースのオリジナル車高調、さらにブッシュはすべてピロボール化し、LSDは前後ともにATSのカーボン製だ



20インチのボルクレーシングTE37の奥から顔を見せるのは、エンドレスのキャリパーキットで前後6ポットだ



純正メーター位置に装着したモーターのマルチメーターは、フェニックスパワーのロゴが浮かび上がる仕様だ



どうしてもピークの数字にばかり目を奪われるが、真に注目すべきは落ち込みのないパワーとトルクのカーブだ



ダッシュボードまわりにステアリング、ドアやピラーまで張り替えたインテリア。シフトブーツやアームレストカバーなども用意し、アルカンターラとナッパレザーから選択可能である

マインズ

☎046・857・3313 <http://www.mines-wave.com/>

経年劣化対策にワンランク上質なアイテムを

最近では経年劣化でリフレッシュの要望が多いR34に向け、インテリアのオリジナルパーツの開発にも力を注いでいる『マインズ』。ノーマルの雰囲気は損なわない大人のデザインで、レザーやアルカンターラなどの素材を用い差別化を狙う。またエクステリアでは廃番となったカーボン性のリヤウイング、トランクスポイラーをリクエストに応じて再販。内外装ともマインズ製「令和バージョン」に仕上げるのが可能だ。すでに発売中のR32用の『ラジオクラスター』やステアリングは根強い人気。今回は間に合わなかったがR33用の車検対応チタンマフラーも近日発売予定



レザーとアルカンターラを組み合わせ、オリジナルのBNR32用ステアリングも展示。価格は13万2,000円だ



R32用のラジオクラスター。前期用が3万8,500円で後期用は4万500円という価格だ。マインズのロゴも入る



意外と傷んでいるクルマが多いルーフの内張りをリフレッシュ。ノーマルと同形状でランプやミラーも装着可能



日産自動車

0120・315・232 <https://www.nissan.co.jp>

最新T-specと共に世界に1台のZプロトも

2021年もステージ前には『日産自動車』が特別展示。R35GT-Rは最新にして集大成であるT-specとNISMO Special editionが登場しただけでなく、なんとコクピットへの乗り込みも可能だったのだ。さらにR乗りのセカンドカーとしてオススメのキックスやノートオーラNISMOにも注目が集まった。室内に乗り込んだり写真を撮ったり、多くのユーザーが関心を持ったようだ。そして最大のサプライズは「Zプロト」だ。GT-Rの祭典とは言え、新型Zは気になるところ。そんなわれわれの心を察して日産が持ち込んでくれたのだ。またR35純正パーツを実際に手に取って体感できるコーナーもあり、GT-R&日産車尽くし。トークショーも大盛況だった！



昨年9月に世界に向け公開された「Zプロト」がR's Meeting会場に降臨。V6ツインターボとMTの組み合わせがRと違う楽しさを提供



ステルスグレーのR35NISMO Special editionはよりスバルタンな出で立ちで精密なエンジンを搭載。高嶺の花と思いつ視線は集中



T-specのミッドナイトパープルの周りには朝イチからGT-Rファンが詰めかけた。ゴールドのエンジンカバーも公開され注目の的！



T-specは1台かと思いきや、田村宏志氏がドライブしてミレニアムジェイドが登場。専用の内装色との相性もよく、独特のオーラを醸し出していた



先代ノートNISMOはサーキットも含めてクルマ好きの人気を集めた。ノート オーラNISMOは新世代のNISMOデザインで見た目も走りも抜群



最新世代のe-POWERを搭載したコンパクトSUV。キックスには当然プロパイロットも搭載され、日産の先進技術が体感できると話題のモデル



「カーボンローターってこんなに軽いのか」という声が飛び交ったR35純正パーツの展示コーナー。実際に触れることでGT-Rの進化を実感した

GT-R Magazine

世界にたった1台のR32 渡邊衛三氏の愛車を披露!

メインステージ横に設置されたGT-R Magazineブース。R32/R33/R34のスタッフカーと共に今回は渡邊衛三氏の愛車R32を展示。160号の表紙になったクルマで、設定にはないダークグリーンメタリックを纏う。超貴重な1台がR32の32周年に登場した。オリジナルグッズやバックナンバーも好評だった



マイナーチェンジの先行試作として塗られた色。今でも渡邊氏が大切に乗り続けている



バックナンバーだけでなく、オリジナル商品も購入可能。お得なイベント価格も設定した

富士スピードウェイ

<https://www.fsw.tv/>

コース図刺繍のキャップや 気になるアイテムが大集合

R's Meetingの会場でありR乗りの聖地にもなった富士スピードウェイ。オフィシャルカーのR35を展示し数々のオリジナルグッズにも多くのギャラリーが集まった。ロゴ入りのマスクやタオル、自宅でもアウトドアでも存在感があるドラム缶を模したマグカップ、ユニークなステッカーなど盛りだくさん



全長4563mmの数字を入れた『9FIFTY』とコース図を配した『9THIRTY』はニューエラ製



人気の「ご当地モケケ」に富士スピードウェイ仕様が登場。コース図とFSWのロゴ入り